

賢人が賢人にバクティラサを教える

『バーガヴァタ・プラーナ』からの物語 グルマーイ・チッドヴィラーサーナンダによる翻訳

賢人ヴェーダヴァーサは、インドの歴史の中で最も高名な学者であり精神の師です。インドの教典の伝統における彼の貢献は、他に並ぶものがありません。彼の名前、ヴェーダヴァーサは、「ヴェーダを編集する者」という意味です。加えて、彼は『マハーバーラタ』を著し、36 のプラーナを記録しました。これらの基礎的な教典は、それまで口述でしか存在していなかったのです。ヴェーダヴァーサはサッドグルであり、彼の弟子たちはグルプールニマーの祝日を作って彼に敬意を表しました。

ある日、最高の賢人で音楽家であるナーラダ・ムニは、偉大な賢人であるヴェーダヴァーサを訪ねることにしました。ヴィーナを奏で、「ナーラーヤナ！ ナーラーヤナ！」と神の名を喜びに満ちた恍惚の境地で歌いながら、いにしえの聖なる川、サラスワティーの川岸のジャングルを通過して旅しました。ジャングルの中は、青々と茂った木の葉やたわわに実った果実、日陰を作るうっそうとした木立に満ちていました。茂みは咲き誇る花々の色で燃えるように輝き、空気はうっとりする香りで満たされていました。この楽園が、賢人ヴェーダヴァーサのアーシュラムのふるさとでした。

ナーラダは、ヴェーダヴァーサが小屋の外のバニヤンの木の下に座っているのを見つけました。ナーラダが驚いたことに、その尊い賢人は、全く元気がなく気落ちしているように見えました。ヴェーダヴァーサは微動だにせず座り、重い荷物を乗せているかのように肩を落とし、額にしわを寄せて、はるか遠くを見るような目をしていました。何か彼をひどく困らせているのだと、ナーラダは見取りました。

ナーラダのチャンティングの甘美な響きを聞いて、ヴェーダヴァーサは敬意を表して立ち上がり、この神聖な賢人にあいさつをし、自分の隣に座るよう招きました。

ナーラダはヴェーダヴァーサが勧める場所に座ると、賢人の困った顔をのぞき込み、言いました。「おお、ヴァーサ、あなたはすべての知識と英知の体現者だ。あなたはヴェーダとプラーナを編さんし、ブラフマンの知識を皆が得られるようにした。それなのに、どうしてあなたはそんなに悲しそうなのだ。おお、先見者よ。この世界に何かひどいことが起ころうとしていて、それがあなたを苦しめているのか」

ヴェーダヴァーサは深くため息をついて答えました。「おおナーラダ、私はこの世界に降り掛かる災難を気に病んでいるのではない。私は自分自身の苦境について考えているのだ。私はすでにある学ぶべきものをすべて学んだ——私が読むべきものはもう何もない。私は自分の義務をすでに果たした。毎日の儀式を忠実に行ってきた。いつも神や賢人や先祖やブラーミンにささげものをしてきた。ヤジニヤを数え切れなくらい行ってきた。それだけでなく、私はヨーガを習得し、ニルヴィカルパ・サマーディを習得した。力の及ぶ限り、すべてを習得してきた。おおナーラダ、これらすべてのことをしてきたのに、私にはまだ喜びがない」。その偉大な賢人は落胆のあまり、静かに崩れ落ちました。

あわれみ深いほほ笑みを浮かべて、賢いナーラダは言いました。「ナーラーヤナ！ ナーラーヤナ！ おお尊い賢人ヴァーサよ、あなたがあらゆる定められた儀式を行い、達成すべきあらゆる知識と英知を達成したのは本当だ。しかし…永遠に至福に満ちた神の甘美な名前を歌ったことはあるか。今までにバクティラサ、献身のネクターを味わったことがあるか」

ヴェーダヴァーサは目を大きく見開きました。「いいや、ナーラダ、私は神の名前を歌ったことがない」

「これが、あなたがとても乾き切って、喜びが全くないと感じる原因だ、おお賢人よ」と、ナーラダは答えました。「ナーラーヤナの名前をチャンティングせず、神の名前の霊薬を飲まず、バクティラサを味わわずにいるならば、ニルヴィカルパ・サマーディの中にさえ、喜びはないだろう」

ヴェーダヴァーサはナーラダに、どのように神の名前を歌うのか、チャンティングの方法を教えてくださいと頼みました。素晴らしい賢人の指導で、ヴェーダヴァーサはすぐに献身の道に没頭し、毎日のヨーガの修行の一部としてチャンティングを始めました。神の名前を歌うことを通して、ついにヴェーダヴァーサは献身の甘美なネクター、バクティラサで満たされました。内側にそれを発見して以来、彼はあらゆる修行の中に喜びを体験しました。

この神聖な至福の爆発の後、賢人ヴェーダヴァーサは、バクティの栄光、すなわち神への献身の栄光をたたえる神聖なインドの教典、『バーガヴァタ・プラーナ』を書きました。チャンティングは、バクティラサへの手段なのです。

Bhagavadpurana, 1.5, 1.6



© 2020 SYDA Foundation®. 著作権所有。